

# 第3部

## 質疑応答

で、特定の分野では絶対に負けないスキルが大切になります。

幸い、このスキルの習得にはU.S. CPAの学習が大きく貢献すると思います。「日本語+英語」「日本のビジネス用語+グローバルなビジネス用語」「特定分野の差別化スキル」が身につきますから、私自身、勉強したことはとても有効だったと思います。一方、マインド(考え方)は、習得できるものではありませんから、意識してみたいかがでしょうか。

### 私がBeckerを勧める訳

TACと提携しているBeckerの特徴を最後にお伝えします。

1つ目は「問題数が多く、解説が詳しいこと」です。前提として、日本人の勉強方法は日本語のテキストで日本人が解説をする。問題に関しても、最初は日本語の解説がついているもので勉強した方が効率的だと思います。その後、それだけだと受からないので、実践的な問題に多くあたって、良い問題を解くことが必要になります。実は問題によっては何を聞いているのかわからない、というものもたくさんあります。特に日本人には分かりにくいんですね。だから、実践的かつ最近の試験傾向を反映した良い問題にたくさんあたることが重要になります。

そして、間違えた問題については、なぜ間違えたのかを把握しておくことが必要です。問題集の多くは、正解の部分のみ解説がついています。ところがBeckerの問題集は、すべての選択肢について解説がついています。正解はもちろん不正解の選択肢についても、なぜダメなのかがはっきりと書いてある。すると間違えた理由もはっきりとわかるのです。

実践的な問題を解く中で、重要な論点やあやしい論点については該当部分の原文を読んでみるのが重要です。Beckerの問題集にはテキストの参照箇所が明記されています。だからすぐに原文に当たることが可能です。細かなことですが、実力をつけていくには必要なことなのです。英語が得意で、Beckerのテキストを最初から読める人は別ですが、日本語のテキストで学習を始めて、問題にあたった場合、間違いに関しては、原文ではどう書かれているのかを参照する、弱いところを原文で読んでおくことで、理解が深まります。

このように効率的に勉強しやすいのがBeckerの良いところです。

日本企業が本気で海外展開をする時代になろうとしています。U.S. CPAを学ぼうという皆さんを必要としているのです。がんばってください。



### Q1

**アメリカと日本において、U.S. CPAは会計事務所以外ではどのようなポジションで働いているのかを教えてください。**

**Lord**▶アメリカではU.S. CPAが幅広い分野で活躍しています。私がU.S. CPA取得後、連邦政府関係の仕事に従事して来たように、アメリカの場合、政府関連の仕事に幅広く就くことができます。もちろん、金融機関では会計だけでなく、投資決定の分野に、さらにマネーロンダリングや不正があった場合、会計上の調査に関わることも可能です。実際に監査や会計以外にも、税務関係でも活躍できます。そしてコンサルティングならグローバルな場でも活躍可能です。

**田中**▶日本にいる日本人のU.S. CPAの場合、私が知っている限りではコンサルティング会社に行く人が多いと思います。ある方は外資系のコンサルティング会社でファイナンス絡

み、M&Aなどを経験し、投資会社で海外の投資案件に携わっています。また、私が取得した当時は監査法人に進む選択肢もありましたが、最近はあまり聞きません。通常の事業会社でも、財務部・経理部に関わらず、海外展開する企業であれば、海外とのビジネス上のやり取りがあります。すると英語と会計は不可欠ですので、活躍の場は広がりつつあるのではないのでしょうか。

## Q2

**現在、実務家として活躍している日本の公認会計士、税理士の方たちは、クライアントの海外展開に伴い、英語を学んだり、U.S. CPAを取得したりするのでしょうか。実務での経験を活かせるので、かなりの強みになるとは思いますがいかがでしょうか。**

**田中**▶確かに強いと思います。日本の会計士、税理士もニーズを感じているでしょうね。会計・税務の実務に加えて、U.S. CPAを取得されたら、かなりの強みになるでしょう。ただ、事業会社にいる人は、自社の現場を詳細に知っている強みがあります。どちらが強いかは言いにくいのですが、私が見ている範囲では、英語と会計以外に強みを持っている方、自信ある分野がある方は、キャリアアップがしやすいようです。ですから、日本の資格プラスU.S. CPAも強いでしょうが、事業会社での経験にプラスしても、十二分に強みを発揮できると思います。

## Q3

**日本企業のグローバル化という中で、私の会社は中国に展開しています。中国でU.S. CPAが役立つという例がありましたら、お教えてください。**

**田中**▶アジア全体に関連する仕事をしているときに、中国の方とも仕事をした経験があります。ご存じだと思いますが、中国は独自の会計基準を持っています。IFRSにも準拠してきていると言っても、まだまだ独自色が強いのが現状です。ですから、U.S. CPAを取得したから、即効性があるかといえば、すぐに効果は出ないかもしれません。ただし、アジア全体で集まって、会計システムの方向性を検討する会議等の場合、当然、使用言語は英語で、英語の会計用語を使って話をします。全員、英語が母国語ではないのに、こうしたケースでは英語での会

議になる。すると英語プラス会計、U.S. CPAは大切です。中国のみに絞ればあまり価値はないかもしれませんが、アジアで仕事をして行こうと考えるとU.S. CPAは非常に有効ではないかと思います。

**Lord**▶一つ付け加えたいのですが、中国の企業がアメリカに上場しようという時にはU.S. CPA資格が必要になってきますのでU.S. CPAを持っていれば、とても有効です。また、IFRSに関しては、中国は一部採択の方向ですので、U.S. CPA試験を通じてIFRSを学ぶことは有益だと思います。

## Q4

**日本での受験が可能になり、今後受験者増が予想されます。すると難易度や試験そのものに影響は出て来るのでしょうか。**

**Lord**▶難易度に関しては今後も変更はありません、これまで通り合格点75%以上は変わりないと思います。また、2011年に試験が大きく変更されました。その内容はIFRSが追加されたことと、試験の項目が変わったことです。こういった変更があった後は、通常しばらくは変更が行われません。もう一つのポイントとして、米国でU.S. CPAがどう見られているかですが、大学を卒業すれば、教育レベルの要件を満たしていると捉えられます。そしてU.S. CPAは、プロとして第一段階の経験を積むための要件として捉えられています。ですから、経験を積み、人材としての価値を高める際に重要な要素となっています。また、キャリアパスにおいては、学識的な知識だけではなく、知識プラス実務、両方を兼ね備えてこそ価値があると捉えられています。ですから、何か新しいことを始める、新しい何かに進んで行く場合は、有利になると考えられています。

米国公認会計士講座 スペシャルイベント  
**TAC** × ベッカー **Becker**  
 日本受験セミナー *Special Event*